

あかれんが

✠ 複十字病院だより

〒204-8522 清瀬市松山3-1-24
TEL : 042-491-4111 <http://www.fukujuji.org>

【発行責任者】院長 工藤 翔二



巻頭言

院長 工藤 翔二

明けましておめでとうございます。

昨年3月11日の東北を襲った地震と津波は2万もの人々の命を奪い、福島原発の放射線被害は今なお住民の方々に苦しみを与え続けています。複十字病院も、震災後の計画停電対応と岩手県山田町保健支援、県立大船度病院呼吸器診療支援を行いました。被災地の一日も早い復興をお祈りしております。

昨年は、数年がかりの“経営立て直し事業”を全職員の結束でやり遂げ、次のステップである、①結核・呼吸器医療のさらなる充実、②がん医療の充実、③地域医療の充実と連携強化、④人材確保と自己啓発の推進を内容とする新たな中期計画、“特色ある医療の新たな構築”に踏み出したところです。

5月には当院が東日本唯一の結核医療の「高度専門施設」に指定されました。がん医療の充実を目指して「院内がん登録」が開始され、6月から半年をかけた放射線治療装置(ライナック)の入れ替え工事も無事に終わることができました。10月には、病院の窓口ともいえる「相談支援センター」が発足し、11月には病院から独立した組織として「複十字訪問看護ステーション」が発足しました。ご協力頂いた近隣医療

施設と関係の皆様にご心より御礼申し上げます。

医療レベルを高める学術活動も、次第に活発になっていきます。私自身は、この秋2つの学会に参加しました。一つは、オランダで行われた「ヨーロッパ呼吸器学会」です。複十字病院からは、“呼吸リハビリ”、“動的胸部X線画像”、“非結核性抗酸菌症”の3つの演題を発表しました。もう一つは、松本市で開催された「呼吸ケアリハビリテーション学会」です。複十字病院からは理学療法士、看護師、栄養士から5つの演題が発表されました。自分たちが行った医療の内容を、学会に発表して批判を仰ぐことは、医療の質を高めるために大切なことです。医師はもとより、コ・メディカルの職員が参加することは、チーム医療の前進のためにも素晴らしいことです。

今回の学会では医療施設間の連携だけでなく、訪問看護ステーションや調剤薬局など地域の様々な領域が参加する、地域を包括したチーム医療とケアのネットワークで、患者さんを支援する新しい流れを感じることができました。医療と福祉の街、“きよせ”なら実現できるかもしれない、東日本大震災に見た“日本人の心”なら実現できるかもしれない。そんな気持ちを抱いて帰りました。今年が良い年になりますよう。



新看護部長に就任して



看護部長 渡部 昌子

このたび、平成23年10月1日付けで看護部長に就任いたしました。改めて就任のご挨拶をさせていただきます。

歴史のある結核予防会、複十字病院の看護部長となると、その使命の大きさや責任の重さに足がすくむ思いを感じずにはいられず、地に足が着かない状態です。しかし、河村前看護部長のもと主任、師長、副部長を経験させていただき、いつの時でも、「できる事しかやれない」という言葉を頂いて行動してきました。看護師として患者のベッドサイドから遠ざかることに抵抗を覚えた時期もありましたが、河村前看護部長の指導を受けながら教育の重要性が理解できるようになり、さらにそのことに励みも感じる事が出来るようになってきました。就任して約1ヶ月が経過しましたが、必要な会議や委員会に参加させて頂き、正直なところ会議の内容が理解できない所も多くありました。しかし、思いとは別に時間は淡々と粛々と経過したように思います。

年度途中での看護部長交代ですので、今年度の看護部目標を継続しながら来年度に繋げて行きたいと考えていきます。また、2011年度事業計画の取り組みから、看護部では看護記録の基準整備、結核病棟の10:1に向けた人員確保も継続して行なっていかなければならないと思っています。看護記録につい

ては、「看護過程記録委員会」が発足し看護部業務委員会が中心となり、看護必要度の根拠となる記録を目標に学習を重ね、記録の監査を行ないながら記録の充実を図っています。また結核病棟の入院基本料10:1を目指すためには、人員確保が基本ではありますが、一般病棟の10:1を維持させることにも重点を置かなければいけませんし目標は7:1です。しかし、人員確保の為の環境整備を行なっても、厳しい状況であることは否めませんが職員からの看護師紹介にも大きな期待をしています。

超高齢化社会に進むにつれ、当院の患者様もますます高齢化してきています。入院という特殊な環境の中で生活をする、やはり混乱が生じ夜間せん妄や慣れないベッドでの生活ゆえ、転倒や転落などの事故も起きています。看護師もそのことには苦慮して看護を行なっていますが、そこはやはりチーム医療の推進が重要と考えます。ベッドサイドは看護師だけではなく医療者全員で関わっていかなければならないと実感しています。また、認定看護師を中心に教育と実践、チーム作りにも力を入れていかなければいけないと考えています。

看護部長として、自己研鑽に勤めながら職員の協力の下、複十字病院の発展に貢献していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

定年退職を向かえ今思うこと

河村 洋子

昭和63年11月15日複十字病院入職。平成23年9月30日付けで定年退職しました。

23年間の長期にわたり公私共に色々お世話になりました。皆様方のご指導のおかげで大過なく勤めさせていただき心から感謝申し上げます。

入職時、職員のもっばらの話題は新しい病院名を何にするかでした。

そして結核研究所付属病院から複十字病院と名称が変わり、呼吸器専門病院から一般急性期病院として歩み始める時期でした。

それと同時に古木だった桜の木が少なくなり、武蔵野の雑木の中にあった病院の環境も変化しました。尾形正方院長（現名誉院長）の基、消化器・循環器センター開設として中央館、ついで呼吸器・整形病棟（手術室を含む）を南館の開設、療養病棟の必要性があり消化器内科を南館に移すなど病院経営が大きく急性期病院に変化した23年間でした。

平成13年から看護部長の任を頂きました。管理の勉強は何もしていない自分には、変化する社会、診療報酬改正、看護基準改正など社会の変化について行くのがやっとの状態でした。看護部長として病院経営に参画するとともに、看護職への指導・教育と言う大切な職責があります。社会から要望されている地域急性期病院の看護部は何をすべきか、また患者サービスに繋げられるように日々看護の質向上をしてゆく事

が急務でした。そのために副看護部長職を置き教育・業務・安全感染管理の職責を果たしてもらったことは、到底一人では出来なかった計画を、実行することが少しは出来たのではないかと思います。

副部長は兼任と言う状況の中で、ご協力頂いたスタッフの方々に感謝いたします。

現代社会にあって、健康でなおかつ永年勤められて定年を迎える事が、当たり前前の時代ではないことを看護師として実感していました。

この度、工藤院長の地域中核病院としての役割を充実させて行く、という構想の中に残らせて頂く事になりました。有難うございます。地域医療連携の充実・患者サービスの充実を目的に、現在ある地域連携室、医療相談室、受付看護相談を統一センター化しました。今後は複十字病院相談支援センターの一員として、これまでの貴重な体験を活かした活動をして行けるよう努力して行きたいと思います。

人生の中で定年と言う音の響きが出発と思えるのは、一人では生きていないと言う実感

健康な体を維持してくれている家族のおかげと思っています。

改めて、永年のご厚情に深く感謝申し上げますとともに、今後とも皆様からのご指導よろしくお願ひ申し上げます。

ヨーロッパ呼吸器学会

呼吸器系では世界最大規模の学会、ヨーロッパ呼吸器学会（ERS）が、9月、運河の街（表紙写真）オランダのアムステルダムで開かれました。全世界から5千を超える演題が発表され、複十字病院からは吉田直之（呼吸ケアリハビリセンター長）、森本耕三（呼吸器センター医員）、本橋典久（呼吸器センター臨床研究員）の3名が、それぞれの分野から研究成果を報告しました。



アムステルダムの夜の街、4人揃って（左から森本、吉田、工藤、本橋）



発表ポスターの前で（吉田先生、工藤院長）

呼吸ケアリハビリセンター長 吉田 直之

50台半ばにして初めての国際学会での発表ということもあり、当日はかなり緊張して会場に入りました。自分のポスターの前でドキドキしながら座長が現れるのを待っていたのですが、ブースにはそれらしい人が見当たりません。しばらくすると、congress

bagを肩から斜め掛けにした一人の外国人男性が私に近づいてきました。一般の参加者で何か質問があるのだらうと思っていたところ、その人が「私が座長です」と言って握手を求めてきたときには力が抜けてしまいました。終始和気あいあいとした雰囲気、特に緊張することなくプレゼンテーションが終了。

その後いくつかのポスターセッションのブースを回りましたが、日本の学会でみられる座長と一緒に大勢の参加者が動くという光景はありません。参加者がそれぞれ関心のあるポスターのところに集まって発表者と話しているのが、ブース全体がざわついており別に座長はいなくてもいいという感じでした。欧州呼吸器学会（ERS）の演題採択率は約70%で、発表形式の大部分がポスターになります。国際学会での発表をしたい気持ちはあるけれど、外国人の前でプレゼンテーションするのは恐ろしいと思っている若い先生たち。ERSで腕試しをしてみたらいかがでしょうか。

呼吸器センター 森本 耕三

9月末のオランダは日本よりも随分涼しいと聞いていましたが、滞在期間中はとても暖かく、学会場までの移動でも少し汗ばむほどでした。私は、専門の一つである非結核性抗酸菌症に関する発表をしてきました。当院では毎年100例以上の新規症例があるというデータは、地域または国全体のもの間違われ、どの国の人（医師）も驚いていました。国際学会の魅力は、普段読んでいる論文の著者や同じ分野を専門にしている医師や研究者と知り合え、情報を共有できることだと感じました。また最先端の情報を多く入手できる素晴らしい機会でした。学会で学んだことを日々の診療に還元していきたいと思っています。

アムステルダムの街並みは御洒落で、北海運河に浮かぶ帆船から見た夕陽はとても美しかったです。ただクロケット（オランダのコロケッ…ころっけ!と日本語で言っても出てきました。笑）以外の料理は…。

呼吸器センター臨床研究員 本橋 典久

今年の開催国オランダのアムステルダムはこの時期、朝晩は気温10度以下まで冷え込むとの前情報でしたが、そんな心配をよそに、学会期間中は日本の秋のような快適な気候でした。現地の人によれば、今年は例年になく暖かかったそうです。学会では複十字病院で現在研究中的胸部レントゲン動態撮影についての発表をしました。今回はCOPDに焦点をあてた発表です。胸部レントゲン動態撮影は、以前当紙面でご紹介したことがあります。胸部レントゲンをビデオの動画のように撮影することにより、機能的な所見を得られることが期待されています。病気の評価を行う新しい手法ということもあり、発表の際には各国の研究者から活発な質問が相次ぎました。今後の研究に役立つ意見も頂戴しましたので、更に研究を深めていきたいと考えております。

new!

新

医師の紹介



こやなぎ なおこ
小柳 尚子

- 配属先／放射線診療部
- 出身地／千葉県

【趣味及び特技】

サッカー観戦、子育て

【好きな言葉】

聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥

【認定医登録】

放射線診断専門医

【専門分野及びご紹介して頂きたい症例】

乳腺領域をsubspecialityとすることを目指しています。症例のご紹介よろしくお願いたします。

【メッセージ】

10年目の放射線科医です。1人産み、2人産み、3人産み…、としているうちに想像していた10年目像とはかけ離れてしまいましたが、目的意識を持って日々邁進しております。よろしくお願いたします。

清瀬市民マラソンに初参加して

健康サポート科 川崎 由香理

薬剤科 望月 譲

きっかけは、2月の職員レクで石黒先生、内山先生を始め同席した方々からのお誘いだった。スポーツは大好きだけど、走ることは苦しいイメージしかなく考えたこともなかった。

気乗りしないまま申し込み期限最終日にエントリーし、練習開始3週間での出場となった。目標は4kmを25分以内。当日は暑くて辛かったが、記録は23分40秒で目標はどうか達成！完走できたことだけで満足。

いつもは5:30起床で朝食・お弁当作り、洗濯、犬の散歩、ごみだして精一杯！走るために5:00起床。目標5時間睡眠を確保し、忙しい朝となった3週間。

工夫すれば時間は作れるものだと、食事相談業務に生かせる良い体験にもなった。

健康支援者として自分ができないことは人に勧められない。動くモデルでありたいので、健康維持・肥満防止のために今も少しずつ走っている。

家族優先だった15年程は遠のいていたが、私の生活にスポーツは欠かせない。

今回ご一緒させていただいたみなさま、ありがとうございました。



10月10日体育の日に清瀬市民マラソンへ初参加しました。4キロ走ったのは本当に久しぶりでした。前半おさえて後半からスピードをあげましたが、途中で足と肺がついていかず、あえなくスピードダウンしそのままゴール…。

2週間ほど前から多少走りこんでいましたが、毎年1キロずつ体重増加している三十路すぎの車体は想像以上に衰えていました。同距離を走った男子複十字ランナーズの面々は、一応最年少の自分よりはるかに記録は速く、普段からのトレーニングの差を思い知らされました(+_+)。

悔しさはありましたが、当日は日差しが強いものの天候も良く、清瀬市の美味しい空気を十分に吸いつつ走ることが出来ました。ちびっ子から年配の方まで参加する地域の行事に参加して、楽しく気持ちの良い一日でした。

当日応援して下さった複十字のみなさんとマラソンへ誘ってくれたランナーズのみなさん本当にありがとうございました。



「工藤院長保健文化賞の 受賞をお祝いの会」開催



2011年11月25日（金）18時半より、リーガロイヤルホテル東京に於いて「工藤院長保健文化賞の受賞をお祝いの会」が開催されました。

秋から冬へと移りゆく季節の澄みきった空気が、夜になると冷たい風を運んできた日でしたが、受賞者の恩師、同僚、ご友人、結核予防会役職員など333名がご参集下さり、会場は温かい空気に包まれていました。

長田功理事長の発起人代表挨拶によりはじまり、元環境大臣の鴨下一郎衆議院議員をはじめ、受賞に関わる各分野のご来賓の方々よりご祝辞を賜りました。2時間という短い時間でしたがとても和やかに盛会裏に終了致しました。会場運営にご尽力下さった職員の皆様方に心より御礼申し上げます。

❖受賞対象となった活動内容❖

びまん性汎細気管支炎の治療法の発見など呼吸器系難病の治療、喫煙によるCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の予防・早期発見、大気環境の保全、薬剤の副作用による肺障害の防止、結核教育など呼吸器領域における幅広い保健医療の発展に貢献。

❖第7回複十字病院院内発表会❖

2011年12月10日午後1時より、第7回複十字病院院内発表会が結核研究所4階講堂にて行われました。今回のテーマは「患者さま中心の医療」への組織へ各職場、委員会から40演題が発表され、活発に質疑応答がされました。途中約1時間「当院の震災時の対応」についての教育講演があり、又最後に、結核予防会総裁であられる秋篠宮妃紀子殿下の特別ビデオ講演「結核をめぐる人々の意識と行動について」～第86回日本結核病学会総会より～が上映

されました。

全口演終了後には例年のごとく複十字病院の忘年会も兼ねた懇親会があり、おいしく食事をしながら職員同士の親睦を深めることができました。なお懇親会途中優秀発表の表彰があり、以下の5人が受賞されております。

●上間 江里香（放射線技術科）・前川 薫（2A病棟）・中村 千尋（手術室）・黒井 和子（医事課）・星 和夫（経理課・中央監視室）

複十字病院外来医師担当表

H23.12.5 現在

待ち時間短縮のため、診察は完全予約制になっております

【初診受付】(月)～(金)▶8時30分～12時00分／(土)▶8時30分～11時00分

【再診受付】(月)～(金)▶8時00分～16時00分／(土)▶8時00分～11時30分

●予約センター TEL: 042-491-6228

【診察予約】(月)～(金)▶8時30分～17時00分／(土)▶8時30分～12時00分

※診察予約の電話は午前中大変込み合いますので、午後ご連絡して頂くようご協力下さい。

診療科		月	火	水	木	金	土					
呼吸器内科 261 264	初診	午前	工藤	奥村 倉島	1.3.5 2.4	尾形(英)	吉森 吉山 斎藤	1.3.5 2.4 2.4	内山 早乙女	1.3.5 2.4	尾形・吉森 早乙女 尾形・吉田 吉山・内山	1 2 3 4
	一般 (再診)	午前	吉山 吉田	尾形(英) 吉森 早乙女 窪田	吉山 内山 矢野	工藤 尾形(英) 久世 斎藤 林	早乙女 内山 高柳 矢野 國東(SAS含む)	1.3.5 2.4	尾形・吉森 早乙女 尾形・吉田 吉山・内山	1 2 3 4		
		午後	窪田 伊藤	早乙女 吉森 國東	尾形(英) 吉山 早乙女	尾形(英) 奥村 森本 青木 中川	1.2.3.5	奥村 矢野				
	専門 外来	午前		工藤(宏) せき外来	内山 サルコイドーシス 高柳 喘息外来							
		午後	倉島 非結核性抗酸菌症 森本 非結核性抗酸菌症	倉島 非結核性抗酸菌症 吉田 呼吸ケア	内山 禁煙外来 高柳(隔週) 禁煙外来	倉島 非結核性抗酸菌症 青木 禁煙外来	工藤(宏) 喘息アレルギー 内山 禁煙外来					
呼吸器外科 261	初診	午前	白石				白石	白石	2			
	再診	午前	白石 兵庫谷				白石	白石	2			
		午後	葛城		喜多							
内科 306	初診 再診	午前	青木	肥留川	伊	大塚(大)	斉藤					
消化器外科 305	初診	午前	池田 尾形(正)	生形	尾形(正) 安部	中浦	小山 麻生	中浦・小山 生形 中浦・小山 生形	1 2 3 4			
		午後	池田 尾形(正)	生形 尾形(正)	尾形(正) 安部	中浦	小山 麻生	中浦・小山 生形 中浦・小山 生形	1 2 3 4			
	再診	午前	池田 尾形(正)	生形 尾形(正)	尾形(正) 安部	中浦	小山 麻生	中浦・小山 生形 中浦・小山 生形	1 2 3 4			
消化器内科 305	初診・ 再診	午前		吉原		吉原						
		午後		吉原		吉原						
乳腺外科 335	初診・ 再診	午前	担当医	小西・田中	武田・田中	関口・担当医	武田・小西	武田 (第4週)				
		午後		小西・田中	武田	武田						
循環器内科 306	初診・ 再診	午前	鈴木(文)	山崎	鈴木(文)	鈴木(文)	藤崎	鈴木(文) (第2週)				
		午後	鈴木(文)			鈴木(文)	藤崎					
耳鼻咽喉科 265	初診 再診	午前	北原			大塚(健) 3.5						
泌尿器科 266	初診 再診	午前 午後	平野(午後)		堀口(午前)	林(午前・午後)		林(第2週・4週) 午前				
糖尿病外来 329	初診・ 再診	午前			鈴木		高橋					
		午後			鈴木		高橋					
もの忘れ外来 202	初診 再診	午後	担当医									
歯科 267	初診 再診	午前				石黒 午前のみ	石黒	石黒 (2・4)				
		午後	石黒	石黒	石黒							

●担当医は、変更になることがありますので確認のうえ、ご来院ください。

外来医師一覧

※(非)と記載のある医師は非常勤医です

【呼吸器内科】

工藤 翔二・尾形 英雄
吉田 直之・吉山 崇
早乙女幹朗・倉島 篤行
吉森 浩三・内山 隆司
奥村 昌夫・國東 博之
窪田 素子・矢野 量三
森本 耕三・青木美砂子
伊 麗娜・伊藤 邦彦
久世 眞之・肥留川一郎
中川 嘉隆
工藤宏一郎(非)
林志文(非)・斎藤雅美(非)
高柳喜代子(非)

【サルコイドーシス】

内山 隆司

【呼吸器外科】

白石 裕治・葛城 直哉
喜多 秀文・兵庫谷 章
平松美也子

【内科】

大塚 大輔(非)

【消化器外科】

尾形 正方・池田 義毅
生形 之男・中浦 寛
小山 英俊・麻生 喜祥
阿部 昌之

【消化器内科】

吉原 和雄

【乳腺外科】

武田 泰隆・小西寿一郎

田中 規幹

関口守正(非)

【循環器内科】

鈴木 文男・山崎 憲(非)

藤崎 正之(非)

【耳鼻咽喉科】

北原 哲(非)

大塚 健司(非)

【泌尿器科】

林 暁(非)

堀口 明男(非)

平野 功(非)

【糖尿病外来】

鈴木 晟時(非)

高橋 和人(非)

【歯科】

石黒 和夫

複十字病院理念

私たち複十字病院の職員一同はこの理念を常に念頭において研鑽し、努力いたします。

1. 私たちは患者さま中心の医療を行います。
2. 私たちは皆様の健康を第一に考え、人格を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 私たちは開かれた、信頼感のある医療と温かい看護を提供します。
4. 私たちは最新で最良の医療を提供します。
5. 私たちは地域の医療、保健、福祉に積極的に参加します。

● 複十字病院の基本方針 ●

1. 一般急性期病棟と療養型病棟の複合型病院として、高齢化する地域社会に貢献するとともに関東ブロックの結核拠点病院として結核予防会の使命を果たす。
2. 複十字病院登録医会を中心として、病診、病病連携を推進し地域医療に貢献する。
3. 職員教育を充実させ、患者さまへのサービスと医療の質的向上を図る。
4. 在宅医療、救急医療の充実を図るとともに、検診事業の内容を発展させ新しいがん検診システムを構築する。
5. 院内、院外の情報システムを充実し、地域社会に積極的に参加する。
6. 職員の原価意識を高め、健全な病院経営を行う。
7. 患者さまは年齢、性別、地位に関係なく十分な説明に基づいた治療を受け、第三者の意見を聞き、診療情報の開示を求める権利を有する。
8. 危機管理を充実し、医療事故防止に努める。

人事異動

2011年9月15日～12月14日まで

【採用】

(看護師)	吉本 由紀子	12 / 1
(看護師)	阿相 美雪	12 / 1
(臨床検査技師)	伊藤 愛	12 / 1

【退職】

(看護助手)	高橋 郁子	9 / 30
(理学療法士)	小松 優子	12 / 14

東日本大震災被災地支援『緊急写真展』への多額の募金をありがとうございました

写真家の溝江俊介氏が震災発生から数回にわたり現地を訪問して撮影した結核予防会の支援活動状況や被災地の写真を「緊急写真展」として展示いたしました。(新山手病院、第一健康相談所、当院の3事業所にて開催し、当院は放射線科前の廊下に展示)

この写真展開催に際して、皆様に募金をお願いしましたところ、本会事業所全体で191,330円の募金がありました。誠にありがとうございました。

編集後記

今回の表紙の写真はどうか？

新年号、朝日もいいですがアムステルダムの風景写真もいいですね。この写真を見て編集委員たちは♪行ってみたいなあよその国♪を口ずさみました。行きたい所はいっぱいあります。今はお金や時間がなくても世界各国の風景を見ることができ幸せです。(H・Y)

行事予定

1. 年末年始休診

日時▶2011年12月30日(金)～2012年1月3日(火)

2. 院長年頭挨拶

日時▶2012年1月4日(水) 13:00
場所▶複十字病院 講堂

3. 職員健康診断

日時▶2012年1月10日(火)・11日(水)・12日(木)
場所▶結核研究所 講堂

乳がん市民公開講座開催

2011年11月3日(木) 祝日14時より清瀬市生涯学習センター 7F アミューホールにおきまして、「第8回乳がん市民公開講座『明日の私のために』」が開催されました。

当日は約120名の方がご参集くださり、乳がんに関する活発な質疑が行われ、盛会に終了いたしました。

演者及び演題は下記のとおりです。

テーマ「乳がんー再発しても怖くない」

1. 「再発乳がん治療の最新情報」

複十字病院 乳腺センター乳腺科長
小西 寿一郎

2. 「地域で支える乳がん診療」

複十字病院 乳腺センター長
武田 泰隆



表紙の写真

オランダは運河の街。街中を縦横に運河が流れている。運河に面したアパートの家賃は高いそうだ。街の鮮やかな色彩はゴッホを生んだ国にふさわしい。(翔)